



ゆずりがはもり

号外 No.14

津島中のあゆみ

<校訓> 友愛・清廉・飛躍

文責：第17代校長 近藤 浩一

いよいよ「津島中のあゆみ」最終号となりました。今回は、部活動その6「吹奏楽部」です。

吹奏楽部

昭和46年に津島中吹奏楽部が発足して以来丸8年、特にこれといった業績は上げていないが、地域に奉仕する地道な活動を続け、今日に及んでいる。昭和46年当時の楽器は清満、北灘、南部、畑地、由良の各中学校が使用していたものをそのまま集めたもので、耐用年数を超えていたり、管理状態が悪かったりしたものが大半を占めていた。活動に支障をきたす状態だったので、多額の修繕費を投じ、大阪で修理してもらってようやく楽器らしい楽器になった。

十周年記念誌「礎」の一節です。実質統合してすぐに創部された吹奏楽部は、昭和48年にできた合唱部とともに地道に音楽活動を続けていました。しかし、前述のとおり、高価な楽器をそろえるのに苦労していた様子がうかがえます。初代・山本校長先生の肝いりで数十万円かけて太鼓類をそろえるなど、少しずつ必要な楽器がそろってきました。平成に入ると「全日本吹奏楽コンクール愛媛県大会」に出場するようになり、平成9年には念願の金賞を受賞しました。

主なコンクールでの成績は右のとおりですが、近年は、部活動の時間が短くなったため、コンクール前には効率的な練習ができるよう工夫しています。また、数年前には宇和島市教育委員会の御厚意で数多くの楽器を購入していただき、演奏の幅が広がりました。部員数は、多くはないのですが、近年、創部当時は少数だった男子部員が増えました。今後は力強い演奏が期待できるのではないのでしょうか。

そして、気が付いてみると創部当時から取り組んできた地域での演奏活動に、更に力を入れています。「つしま夏祭り」や「しらうおまつり」などの大きな地域行事はもちろん、小さなイベントにも参加して、にぎやかな演奏を地域の皆さんに届けています。これからも津島中学校の「地域貢献」の大きな戦力になっていくことでしょう。



第40回全日本吹奏楽コンクール愛媛県大会
金賞 (H9)

主なコンクールでの成績

(全日本吹奏楽コンクール県大会)

金賞 平成9年、平成28年、平成30年

(全日本吹奏楽アンサンブルコンテスト県大会)

銀賞 フルート三重奏：平成30,31年

打楽器三重奏：令和4年



「つしま夏祭り」での演奏 (令和5年)

歩み続けた 57 年 そして未来へ

私が、第 17 代校長として赴任してから、はや 3 年がたとうとしています。赴任した当初は新しい校舎に戸惑い、「ここ、どこの学校やろう?」と感じていました。しかし、新任式の体育館で生徒たちが合唱した校歌を聴いて、「ああ、やっと帰ってきた」と実感しました。



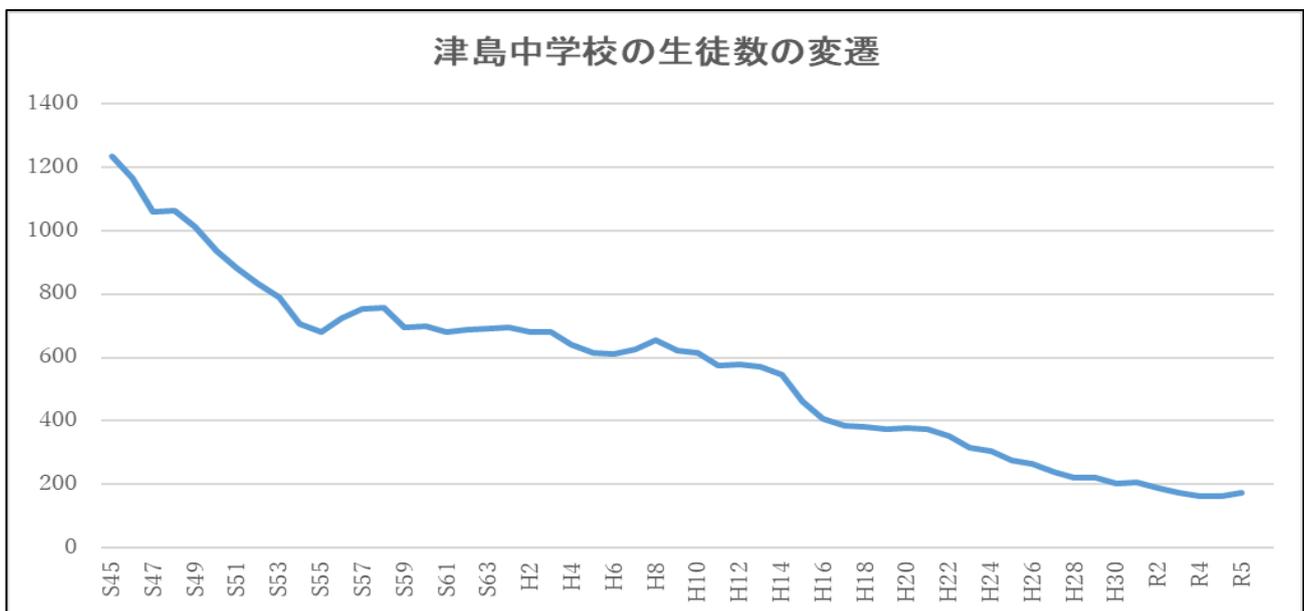
私は、17 代目にして初めての「津島中学校卒業」の校長です。卒業生として、何かできることはないかと考えました。私が中学生として 3 年間通ったのも、教諭として 10 年間勤務したのも、さらに保護者として 5 年間訪れたのも旧校舎です。私にとって愛着のある旧校舎のことを記録に残しておきたいと考えました。そこで、旧校舎のことを中心に、本校の歴史を学校通信「ゆずりがはもり」の号外としてまとめることにしました。

本校の歴史をまとめるにあたり、参考にさせていただいたのが 2 冊の記念誌です。1 冊目が、十周年記念誌「礎」です。2 代・岩城忠校長先生が作られました。私はそのとき中学生でした。もう 1 冊が「創立 30 周年記念誌」です。8 代・清家政夫校長先生が作られました。私はそのとき教諭として本校に勤務していました。この 2 冊を読み込んでみると、これまで本校に関わっていただいた方々の努力や熱意がひしひしと伝わってきました。私も校長として、母校のために精一杯勤めようという気持ちを強くしました。

気が付いてみると、津島中学校での校長としての 3 年間はあっという間に過ぎ去り、私は昨年へ還暦を迎えました。そして、今月末の役職定年を機に退職することにいたしました。教職生活の最後の 3 年間に保護者となった教え子に見守られながら、母校で過ごすことができ本当に幸せでした。最後に、本校の生徒数の変遷をグラフにしてみました。残念ながら、見てのとおり右肩下がりで、近い将来 100 名を切ることも予想されています。しかし、小規模になっても、どこか「津島らしさ」を発揮して、光り輝く学校であり続けることを祈って、筆をおきたいと思います。



津島中学校の生徒数の変遷



3 年間、ありがとうございました。